

会 議 録

会 議 の 名 称	新座市公共施設再配置計画策定に向けた市民説明会
開 催 日 時	午後3時から 令和8年4月23日(木) 午後4時55分まで
開 催 場 所	大和田公民館2階 研修室
事 務 局 職 員	<p>総合政策部長 伊藤 総合政策部副部長 浅島 総合政策部参事兼公共施設マネジメント課長 加藤 公共施設マネジメント課副課長 柴沼 公共施設マネジメント課公共施設マネジメント係長 増田 公共施設マネジメント課主査 照井 公共施設マネジメント課主任 田島 教育総務部長 齋藤 教育総務部副部長兼教育総務課長 森山 教育総務課小・中学校適正配置等推進室長 五十嵐 学校教育部長 丹代 学校教育部副部長兼教育支援課長 山崎 学校教育部参事兼学務課長 大内</p>
説 明 会 内 容	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 総合政策部長挨拶 3 計画素案についての説明 4 質疑応答 5 閉会
説 明 会 資 料	<ol style="list-style-type: none"> 1 次第 2 資料1 3 資料2 4 資料3 5 アンケート調査票
参 加 人 数	22人

説明会の内容

- 1 開会
午後3時00分開会
- 2 総合政策部長挨拶
- 3 計画素案についての説明
 - ア 公共施設マネジメント課職員説明
配布した資料1・2に基づき、公共施設マネジメント課から説明した。
 - イ 教育総務課職員説明
配布した資料3に基づき、教育総務課から説明した。
- 4 質疑応答（・は市民の発言(カッコ内は居住地)、→は職員の発言を示す。）

→(司会) 次第4の質疑応答に移る。本日はできるだけ多くの皆様からご意見ご質問を賜りたいと考えている。たくさんいらっしゃれば一人一問ずつとしたいが現時点で質問がある方は挙手をお願いしたい。

 - ・(大和田一丁目) 施設の再配置方針で大和田一丁目集会所と大和田集会所が廃止の予定になっている。廃止になると地域の集会所が大和田杉山集会所だけとなり、今まで多くの人々が利用していたこの地域から3つのうち1つしか残らない。あまりにも乱暴な計画ではないか。再検討を求める。
 - ・(栄四丁目) 老朽化とか人口減、あるいは財政上の問題しか話せていないと感じる。本当に施設を利用する市民の立場に立って検討されているか大変疑問である。

集会所は、特に高齢者にとっては必要な施設である。今は寿命よりも健康寿命が大変重要で、健康寿命を支えるのは、お年寄りが外に出て地域活動や文化活動や、みんなと一緒に活動することである。その拠点が集会所や公民館である。長野県は健康長寿で有名だが、公民館や集会所の頑張りが大きいと言われている。特に新座市は交通の便が悪いので集会所や公民館が遠くになったら行けなくなる。その辺りはしっかり考えてほしい。

それから学校については、これからは20人・25人学級で考えるべき。人口減、子ども減の時こそ少人数学級をやるべき。1回学校を潰したらもう建てられない。そういう長期的観点に立ってどういう新座市にしていけるのか、子どもにも大人にも老人にも住みやすいという新座市の政策をぜひ一緒に市民とともに考えていってほしい。

20人学級や25人学級とした場合の試算は出すのか。

→ 先程も申し上げたが、少人数学級についても検討は進めていく考えである。それが20人なのか25人なのかも、学級数を増やすメリット・デメリットも含めて考えていきたい。

 - ・(野火止六丁目) 公共施設再配置計画で公民館と小学校と障がい者施設を全部まとめてあるのは、とても乱暴な提案の仕方だと思っている。教育委

員会の皆さんもご存知だと思うが、昨年の小中高生の自死が532名、小学生10名、中学生170名、残りが高校生である。昨年は不登校が34万人になってしまい、しかも虐待が22万4千件近くもある。今、本当に学校は疲れている。戦後に教育基本法を変えられてしまったが、教育の目的は人間としての人格完成にあるので、本当に少人数で教師と子どもが向き合って教育をしていかなかったら、小・中学校を一つの施設にして大規模校でやるのは教育にとってマイナスではと思っている。

色々な本を読んでも、小さな学校で、小さな学級で、小さな学区で、今、地域の人がみんな子どもを育ててくれるような方向じゃなかったら、今の子どもたちの境遇に寄り添えないと思っている。

施設の問題とか老朽化ではなく、今生きる子どもたちにとってどういう教育がいいかを本当に真剣に考えて取り組んでもらって、お年寄りも子どもも、障がいのある人も大切にできる市政を望みたい。

- ・(大和田一丁目) 身近なところだが、大和田一丁目集会所、大和田集会所廃止という案が出されている。

説明会に来るのは初めてだが、想像してた以上に調査、分析がすごくされており圧倒されている。皆さんお疲れ様ですとまずお礼を申し上げたい。

資料2の12ページ見ると利用者数の表があり、大和田一丁目集会所、大和田集会所ともに平均より少なくなっている。一見、これでは廃止でもしょうがないと思わせる資料になっているが、やはり先程もお話があったように、その地域の方々のうち何割、何パーセントが利用されているのか、そういう資料もあったら良いと思った。資料を作られている方は、当然現役の方なので、足腰も自由に動く方々が多い。ところが老人の方は、杖を使う、あるいはシルバーカーを押してきている方が非常に多いので、これを廃止して、もうちょっと遠くまで行ってくれとなっても、行けない方は結構いらっしゃる。だからそこは考えていただきたい。

資料3の11ページではこの第四中学校ブロックについて記されている。新開小学校と新座小学校の学区域を市のホームページで調べてみたところ、新座小学校の学区は新座一丁目・二丁目・三丁目の狭い地域だが、新開小学校は大和田一丁目・三丁目・四丁目・五丁目だけでなく、中野一丁目・二丁目も学区となっていることがわかった。中野に住んでいる小学生は現状でも通学距離が2kmを超えているのではないだろうか。また、新開小学校は廃止し新座小学校にまとめるとなると、現状よりもさらに遠くに通うことになるのではないだろうか。年に何回の話じゃなくて毎日の通学なのであまり遠くまで通わせるのはただ大変だけではなく、交通安全のところでも心配になる。

市長の三期目就任挨拶を昨日見たが、「喫緊の課題である子育て支援や、未来を担う子ども達の教育環境整備、誰もが安心して地域でいきいきと生活するための高齢者、障がい者支援、物価高騰に対する経済対策等を推進いたします。」という内容がホームページに載っていたので、ぜひこの姿勢に則ってさらに進めていただきたい。

- (教育総務課) 通学距離は現状、距離でしかお示ししていない。この2km、4kmというの、付属資料に添付させていただいているが、いわゆる半径2kmという形の検討しかしていない。当然高低差や通いやすい、通いにく

といった事情があるので、その辺も含めて通学区については検討させていただきたい。

- ・(大和田五丁目) 小中学校の適正配置と言っていたが、何年か前に学校長寿命化ということで、新座市では学校は全部鉄筋コンクリートで作っているので壊したりしない、耐震化や補強をしながら使い続けていく、そのために基金が必要ということで、何億かの基金を積み立てたはずである。いくらだったか金額は覚えていないが、そのことはもう終わりになったのか。

確かにこの表を見ると、子どもは減少する。これはもう全国的なことで、ある程度の目安は最初からわかってたはずである。この表を見てもわかるように、急激に減るというよりも、横ばいの状態がある期間まで続き、その後については、もちろん減ることが誰も予測はできると思う。新座市の場合、地方の学校のように急激にゼロに近くなることではない。教育委員会は学校を長寿命化する方針を出しておきながら、文科省が義務教育学校という制度を出してきたから文科省の方針に則りたいという意向はどうなのか。新座市の子どもたちのために何が一番良いのかを検討していただきたい。

この報告書における検討結果は方向性の一つであって、教育委員会の方針として決定したものではありませんと大きく書いておきながら、義務教育学校を作りたい意思がありありと見える。そんなことで本当にいいのだろうか。学校の耐震化もできていて、それを使いながらやっていく方針を新座市では数年前に出しているの、そこでの整合性について質問する。

- 基金の話だが、令和5年度にまず20億円の基金を積み立てていて、施設の改良改修について使っていく考えである。その後も、2億円ずつを毎年積み増しし、継続して使っていくという方針であったが、物価上昇や、補助金の交付状況を踏まえると、2億円ずつだと足りない状況になっている。このため、今年度からは、少し積み増し額を増やし、5億円を積み増している。学校施設長寿命化計画は、今後20年を見越して、学校の施設改修にはどれくらいかかるだろうかという試算をしているが、その頃と比べて、物価上昇等も進んでいる。5億円ずつ積み増しをさせていただいているが、あくまでも最低限の数値となっており、潤沢なものではない。再配置計画等にも関わってくるが、再度試算をし直して、どのようにしていくか考えていきたい。

- 義務教育学校にしたいから、こういう計画にするのではというお話だったが、義務教育学校にしたいかしたくないかということではない。小中一貫という言葉と義務教育学校という言葉だけが独り歩きをすると、ニュアンスが変わってくると思うので、教育界の諸々の流れからご説明させていただく。

平成25年ぐらいから小中一貫という問題が文部科学省から提案されている。これは何かというと、その当時から教育界の中に様々な問題が出てきていて、中1ギャップや、いじめの問題、不登校の問題、諸々のことがあり、それぞれの学校の工夫のもとに学校の課題、子どもたちの課題に向き合っていた。それを学校の編成で解決できないかという提案されていたのが小中一貫という考え方である。

では、小中一貫ということに、今まで新座市が向き合っていなかったのかどうかだが、そうではなく、平成25年ぐらいには、新座市は小中連携ということに取り組んでいた。当時とその少し前は現在と全然違う状況で、子どもたちが非常に荒れていた。そうした状況下で小学校と中学校が連携して、子どもたちの学習、生活を立て直すことができないだろうかということを一生涯懸命相談していた時期だった。新座市は当時、非常に先進的に取り組んでいて、小学校と中学校が毎年授業を見に行き、見に来て、その後それぞれの教員たちが今の状況を改善するためにはどういう指導をしたらいいかと相談しながら、お互いの指導をすり合わせたり、ルールを申し合わせたりしながら、子どもたちの荒れに向き合っていた。

平成25年ぐらいというのは、小中一貫という考え方が出てきただけではなく、コミュニティ・スクールというものも出てきた。新座市では、野火止小学校をコミュニティ・スクールとして位置付け、学校運営協議会を置いて、運営を始めた。そこから、市内の小・中学校全校に学校運営協議会を置いて、地域と学校と家庭がともにつながりながら、子どもたちの教育をよくしていこうということに向き合い組織を作ってきたのが新座市の取り組みである。こうした経緯もあり、各学校だけではなく、中学校区として周辺の地域も含めて手を取り合いながら、学校づくりができないだろうか、それまで続けていた小中連携を、コミュニティ・スクールを契機にさらに発展させ、地域の人材も地域の教材も含めて一緒に何かできないだろうかとさらに推進してきたのが、ここ数年の新座市の取り組みである。そうすると、小中連携という生徒指導上のことだけではなく、授業をどうしていくのかとか、教育課程をどうしていくのかというアプローチが見直されるようになった。

このように、新座市では、文科省の提案、中央教育審議会の提案があって、小中一貫というところに飛びついたというよりも、教育課程を見直しながら、小学校と中学校の教育課程をどう作り直していけば、さらに連携が広がるだろうかと考え直して、ただの生徒指導上の手を携える連携ではなくて、教育課程を作り直すところの小中一貫を見直している段階である。この取り組みは非常に難しく時間がかかる。それぞれの中学校区で色々なやり方でその教育課程を見直している。

小学校は小学校だけ、中学校は中学校だけ見てればいいのかということ、そのようなことはない。やはりお互いの学習内容とか指導にすごく自覚的にならなければいけなくて、見通しを持って、どう子どもたちを育てていくのかをまず考えているということをご理解いただきたい。

重なりがないのかとか、同じことをやっているのか、やっていないのかということ考えたときに、何らかの繋がりがあれば、それをお互いに融通し合って、少しでもゆとりが作ればいとも考えている。

現在、国全体の大きな教育の流れとして、学習指導要領の改訂が控えている。現行の学習指導要領は平成29年、30年、31年に改訂されてきたが、10年ごとぐらいに見直しをされているので、次の学習指導要領の改訂に向けて国が動いているところである。この中で大きな改訂があり、国の教育課程自体が軽くなり、見通しを持ちやすくなり、余剰の時間、余白を生み出しながら、学校の教育を進めようというようなことも言われている。

こうしたことも踏まえて、今の公共施設の配置を見直すのと同時に、小

中連携とか小中一貫の教育課程も考えながらも、さらに次の学習指導要領のことについても考える必要があるということをしている学校教育だということをご理解いただけたらと思う。

- ・(野火止五丁目) 野火止五丁目は高低差が無いところだが、大和田公民館まで来ると坂を下りる必要がある。自転車で登ろうとすると引っ張って歩かなければいけない。そういう意味では、野火止五丁目の集会所は坂の上の方に住んでいる人たちにとっては、とても利用しやすい。だからこれは無くさないで、借地と書いてあるから借地だと思うが、公共用地にしてもらいたい。今もたくさん利用している。お年寄りが楽しそうに話している。こういう集会所は無くさないで、建て替えをするなり、あるいは補強で対応できるならそのまま維持してもらいたい。

新座は公共施設が少ないので、私たちが若い時は児童館もいっぱいあったらいい、図書館もいっぱいあったらいいと思っていた。以前住んでいた自治体では図書館もあり、そこで色々な社会教育活動をしていたが、新座市に転居してきたら何もなかった。公共施設は子どもたちの健やかに伸びるためにも、人格を形成する上でもとても大事なものだが、少ないと思う。辛うじて集会所や公民館があることによって地域コミュニティを支えていると思うので、無くさないでほしい。

もう一つは、子どもの教育は、外国は20人学級と言っている。先程の説明では30人から35人学級とのことだったが、それは政府の方針だと思う。

企業のために子どもを育てるのではなく、どの子も素晴らしい人格を備えていくことを希望している。そういう子どもたちになるような社会にしてほしいと思っている。少人数学級で豊かな子どもが育てられるよう、政府の方針に惑わされなくて、子どもの姿を見て、今の何が問題なのか、その問題に心を置きながら、考えながら改善をしていく教育にしてほしい。

- ・(大和田五丁目) 皆さんの要求でできた集会所を潰さないでほしい。なぜかと言うと、歩いていける。身近に集会所があるのは大事なこと。

絶対に建て替えをして、これから使う子どもたちを思うと、しっかりした集会所を作って、高齢者が集まれる場所を潰さないでほしい。

それから学校の方、学校は子どもが少なくなったら少ないなりの少人数で、今アメリカで先生が子どもたちを把握するのは19名だと言っている。だから今の35人学級なんて多いと思う。

それから教員がすごく悩んで、小学校だけでも悩んでやっている。中学校、小学校を修理して、中学校の子どもを考えなきゃならない。何しろ小学校の先生たちが悩み悩みでやっていけない状況で、もっと教育内容を充実してほしい。

- ・ オーストラリアでは日本語クラスを20人では多いから10人でやっている。語学教育は10人ぐらいでやらないとダメだと言っていた。日本では40人でやってると言ったところ、とんでもない、ふざけてると言われた。そういうことを踏まえて、ぜひ将来に向けては少人数でやってほしい。

それから、小中の問題を熱く語られてたが、それだけ重要な問題である。小中連携でやるかどうか、今の子どもたちに本当に合ってるかも含めて、

今の子どもたちが全然違い暴力的な子どもがいなくなったし、むしろ不登校とか、無気力とか、そういう子どもたちが多なのは、僕は、学校規模を縮小すべきで、大きい学校を作るのはやめたほうがいいと思う。

大きい学校を統合して、中高、小中とあるが、全国的に上手くいってないのではないかと。私は小学校、中学校、高校があるべき姿だと今でも思う。その方が子どもたちは通いやすいと思う。

それから最後1つだけ質問だが、1人当たりの公共施設保有量で、新座市は1人当たり1.56平方メートルとのことだった。県内の平均値では2.30平方メートル、この辺りの朝霞や志木、和光に至っては2.06平方メートルとなっているが、こんなに差があって、新座市は1人当たりの公共施設の保有量が少ないのに、それでも減らそうとしているわけか。

→ 今回資料でお示しさせていただいた通り、国で公表している数値上、県内では新座市が市民1人当たりの面積としては少ないというのが、実態としては表れている。さらにここから数量削減を、市はとにかく減らしたい目的で今回の取組をやっているわけではないのは、まずご理解いただきたい。ご説明させていただいたとおり、市の公共施設は一斉に更新の時期を迎えているというのが実態である。お金だけじゃないというご指摘があったが、一斉更新の問題に向けての対応として、お金も重要だと我々は考えている。それがなければ、これからの市政運営も安定的にはやっていけないことも、目の前で見えている実態である。

ただ闇雲に数量を減らす前提で、この計画を進めていこうというわけではなく、安定的により必要なものを、維持存続させていくための取組ということで、策定の作業を進めさせていただいていることをご理解いただきたい。その結果としての数量の削減は、一定量出てきてしまうという考え方である。

- ・ 説明会が平日の午後3時からでは、小学生とか中学生の保護者はほとんど参加できない。そういう説明会もやるべきである。先程の教育の面で言うと、子どもたちの保護者はほとんど意見が無い。
- 説明会の回数が多いか少ないというご意見はある。
- ・ 回数の問題ではなく、時間の問題だ。
- 先週の土曜日に市役所で実施した。その時は48名ぐらい参加した。

- ・ 説明会はもうやらないのか。
- 明日に西堀・新堀コミュニティセンターで終わる。
- ・ 再度やることはないのか。
- 現時点では決まっていない。
- ・ もっと広いところで色々な意見を聞くべきではないか。

- ・ 感想だが、新座市はものすごく広い。本当に広いから、自分の周りのことしかわからない。東京の方のことをここで全部説明されてもわからない。子どもが小学校のときはものすごく近くて良かったが、年月を経て、今は老人施設に通ってすごく楽しみにしている。でも歩いたら30分かかかる。その30分のところですらなくなってしまう。しかも交通手段もない。にいバスも本数がすごく少ないし、民間のバスもどんどん減ってくる。

だから大規模になればなるほど老人は暮らしにくく、子どもも暮らしにくい。子どもと老人を大事にする新座市にしてほしい。

もっと丁寧な説明をしてほしい。すごく皆さん詳しく調べて、研究して、それをどうだと言われても頭に入っていない。

5 閉会

午後4時55分閉会